



# 大会 PROGRAM プログラム

## 口頭発表

11月24日(金)

講演番号	講演時間	タイトル	発表者氏名
1-1	11:00	塊状ハマサンゴについた歯形ーかじった犯人はだれか？	○桑村哲生 (中京大・教養)
1-2	11:15	Picophytoplankton at the coral reef of Sezoko Island	○Beatriz E. CASARETO (LASC)・Y. SUZUKI (Shizuoka University)・L. CHARPY (IRD-France)・Y. SHINOMURA (Shizuoka University)・Y. ISHIKAWA (Institute of Environmental Science)・Y. SHIOI (Shizuoka University)・Y. NAKANO (Ryukyu University, Sezoko)・H. FUJIMURA (Ryukyu University)
1-3	11:30	低被度サンゴ群集モニタリングへのポイントカウント法の適用	○山本 広美 (沖縄美ら海水族館)・岡地 賢 (個人)・野中正法 (沖縄美ら海水族館)
1-4	11:45	沖縄瀬底島のサンゴに群がる多様なバクテリア <SSU遺伝子構造による解析>	○吉永光一・Casareto Beatriz・鈴木 歎 (静岡大)・伊藤卓司・ジュリーロジャー (三菱商事)
	12:00	昼食	
1-5	13:00	サンゴ礁における動物プランクトンの日周変動	○中嶋亮太・戸田龍樹 (創価大・工)・吉田輝明・BHR Othman (Universiti Kebangsaan Malaysia)
1-6	13:15	マレーシア・ティオマン島におけるOstracodaのブルームについて	○戸田龍樹・中嶋亮太 (創価大・工)・吉田輝明・R. Omar・B. H. R. Othman (Universiti Kebangsaan Malaysia)
1-7	13:30	サンゴ礁池におけるリュウキユスガモと造礁サンゴの相対的2種共存機構の解明にむけて	○二宮早由子・井上隆彦 (東京久栄)・中野義勝 (琉球大・熱帯生物圏)・矢野優佳 (琉球大・院理工)・Preetika Singh(琉球大・院理工)・土屋 誠(琉球大・理)
1-8	13:45	砂供給者としてみた大型有孔虫の棲息環境	○藤田和彦 (琉球大・理・物質地球)・綿貫 啓 ((株)アルファ水工コンサルタンツ)・青田 徹・柴田早苗 ((株)不動テトラ)・岩尾研二 (阿嘉島臨海研究所)・福島朋彦(海洋政策研究財団)
1-9	14:00	サンゴ幼生に作用する無節サンゴモの他感作用物質	○北村 誠 (名大・院理)・小山智之 (海洋大・海洋科学技術)・中野義勝 (琉大・熱生研)・上村大輔 (名大・院理)
	14:15	休憩	
1-10	14:30	<i>Acropora digitifera</i> における群体成長の季節変動：PAMクロロフィル蛍光測定法による長期光合成モニタリング	○中村 崇・山崎征太郎・山崎秀雄 (琉球大・理工)
1-11	14:45	サンゴの褐虫藻組成とストレス耐性の季節変化に関する研究	○諏訪僚太 (琉球大・理工)・廣瀬慎美子 (長浜バイオ大・環境生命)・日高道雄 (琉球大・院理工)
1-12	15:00	微生物食物連鎖の増殖基質としてのサンゴ粘液の役割	○的場洋右 (高知大・院農)・深見公雄・Keshavmurthy Shashank (高知大・院黒潮圏海洋科学)
1-13	15:15	日本国内のオニヒトデ個体群は遺伝的に混ざっているか？	○安田仁奈 (東工大)・長井 敏・浜口昌巳 (瀬戸内水研)・灘岡和夫 (東京工大)
1-14	15:30	フトエダミドリイシ集団の遺伝的構造	○磯村尚子 (琉球大・院・理工)・日高道雄 (琉球大・理・海洋自然)
1-15	15:45	マイクロサテライトDNAマーカーによるアザミサンゴの集団構造の解析	○鈴木悠太・武島弘彦・早川英毅 (東大・海洋研)・安部真理子・日高道雄 (琉球大・理工)・西田 睦・渡邊俊樹 (東大・海洋研)
1-16	16:00	富栄養化がサンゴ群体の光合成と石灰化のバランスに与える影響	○田中泰章・宮島利宏・小池勲夫 (東大・海洋研)・林原 毅 (西海区水研・石垣)・小川浩史 (東大・海洋研)
1-17	16:15	Role of Dissolved Organic Matter in Coral Reef	○Y. SUZUKI (Shizuoka University)・Beatriz E. CASARETO (LASC)・L. CHARPY (IRD-France)・Y. SHINOMURA (Shizuoka University)・Y. ISHIKAWA (Institute of Environmental Research), Y. NAKANO (Ryukyu University, Sezoko)・H. FUJIMURA, (Ryukyu University)・T. Itou・Julie Roger (Mitsubishi Corporation)
1-18	16:30	造礁サンゴに対する除草剤および船底塗料の潜在リスク	○安村茂樹 (WWFジャパン)・宮城俊彦 (沖縄県衛生環境研究所)・岡村秀雄 (神戸大)・渡辺俊樹 (東大)
1-19	16:45	那覇港外郭施設におけるサンゴの生育に適した流動環境について	鳥谷 学・○佐貫 宏・中瀬浩太 (五洋建設 (株))・江里口岳志 ((株)あさひ)・岡安章夫 (東京海洋大)
1-20	17:00	日本の亜熱帯海域における海草藻場等の閲覧システムの構築	○伊東永徳・宮本和治 ((株)サイエンスアンドテクノロジー)・大谷謙仁・加藤 健・根岸 明・野崎 健・山室真澄 (独)産業技術総合研究所)
1-21	17:15	飼育下トゲシギミドリイシから産まれた胚・幼生の健康状態	○大久保奈彌 (東京工業大・院生命理工)・山本広美 (沖縄美ら海水族館)・仲矢史雄 (お茶の水女子大)・岡地賢 ((有)コーラルクエスト)

11月25日(土)

講演番号	講演時間	タイトル	発表者氏名
2-1	11:00	沖縄県のサンゴ礁海域における栄養塩特性とアオサの関係について	○金城孝一・大城洋平 (沖縄県衛生環境研)・比嘉榮三郎 (沖縄県県民生活センター)・灘岡和夫 (東京工業大)
2-2	11:15	沖縄県久米島で作成されたサンゴ礁地形断面図の情報量とL関数を用いた情報論的解析	○中森 亨 (東北大・院理)・菅 浩伸 (岡山大・教育)・中村隆志 (東北大・院理)
2-3	11:30	養殖サンゴの植え付けによるサンゴ礁生態系再生への取り組み	○山里祥二・成田隆一・杉野守司 (NPO法人 コーラル沖縄)
2-4	11:45	モニタリングサイト1000サンゴ礁調査のとりまとめ成果について～平成15～17年度の日本のサンゴ礁及びサンゴ群集の傾向～	○阪口法明 (環境省)・木村匡 ((財)自然環境研究センター)・岸田宗範・黒川武雄 (環境省)
2-5	12:00	Vitamin B12 in Coral Reefs : Overview and Implications	○Agostini Sylvain・Takagaki Kaori (Shizuoka University)・Casareto Beatriz (LASC and Shizuoka University)・Suzuki Yoshimi (Shizuoka University)
	12:15	昼食	
2-6	13:00	沖縄島サンゴ礁礁池の自然基盤に移植したサンゴ片の生存と成長	○西平守孝 (名桜大・総合研究所)
2-7	13:15	1998年以降の石西礁湖でのサンゴの白化状況	○野島 哲 (九州大・院・天草臨海)・上野光弘 (石垣市)・岡本峰雄 (東京海洋

2-8	13:30	シヤコガイ殻の日輪構造と同位体比・微量元素の分布	○渡邊 剛(北大・院理)・Meibom Anders(スタンフォード大)・白井厚太郎(東大・海洋研)・Cuif Jean-Pierre(パリ大)・横山一巳(科博)・中森 亨(東北大・院理)・佐野有司(東大・海洋研)
2-9	13:45	沖ノ鳥島卓礁の完新世における形成過程	○茅根 創・阿部修平・本郷宙軌(東大・理)・福島朋彦(海洋政策研究(財))・利根川誠(国交省・京浜河川事務所)
2-10	14:00	サンゴ礁海域における科学魚探を用いた底質分布の評価	○古島靖夫(JAMSTEC)・鈴木貞男(O.R.E.)・山本啓之・丸山正(JAMSTEC)
2-11	14:15	海図水路誌などにおけるサンゴ礁分類と表現法	○目崎茂和(南山大)・渡久地 健(沖繩協会嘱託)
	14:30	休憩	
2-12	14:45	サンゴ群生海域における渦鞭毛藻殺滅細菌の分布とサンゴ白化に対するその影響	○深見公雄(高知大・院黒潮圏海洋)・中尾給津子(高知大・農)・Keshavmurthy Shashank(高知大・院・黒潮圏海洋科学)・的場洋右(高知大・農)
2-13	15:00	Responses of Pleistocene coral communities to sea-level changes in the Ryukyu Islands	○ハンブレ マーク アンドレ・井龍康文(東北大・院)
2-14	15:15	阿嘉島周辺海域におけるさんご礁の社会経済的価値	○田村 實(阿嘉島臨海研究所)
2-15	15:30	石西礁湖自然再生事業ーその経緯と課題ー	○野村 環・豊島淳子(環境省那覇自然環境事務所石垣自然保護官事務所)
2-16	15:45	石西礁湖におけるサンゴ幼生着床具を用いたサンゴ群集の再生	○藤原秀一(いであ株式会社)
2-17	16:00	石西礁湖におけるコミュニティーベースMPAの設定にむけて	○鹿熊信一郎(亜熱帯総合研究所)
2-18	16:15	石西礁湖における漁業者・ダイビング事業者などの利用実態と管理への期待	○中谷誠治(亜熱帯総合研究所)
2-19	16:30	聞き取り調査に基づくサンゴ礁生態系環境負荷に関わる社会構造の変遷についての考察	○熊谷 航・瀧岡和夫・松浦慎平(東京工業大・情報理工・情報環境学)
2-20	16:45	慶良間海域保全連合会による造礁サンゴ類の病気発生状況の報告	○入川暁之(慶良間海域保全連合会)・森山敦(あかけるまダイビング事業協同組合)
2-21	17:00	慶良間海域 最重要保全区域における活動の報告	○阿武靖士(座間味ダイビング事業協会)・入川暁之(慶良間海域保全連合会)
2-22	17:15	慶良間海域保全連合会によるデジタルミュージアム活動の報告	○国吉晴大・入川暁之(慶良間海域保全連合会)
2-23	17:30	沖ノ鳥島のサンゴの種苗生産と増殖計画	○三上信雄・安藤 亘・石岡 昇(水産土木建設技術センター)・河野大輔(水産庁漁港漁場整備部)

## ポスター発表

11月24日(金) 9:15~11:00

講演番号	タイトル	発表者氏名
P-1	群体サイズと群体年齢が群体性サンゴの成長や繁殖に及ぼす影響	○甲斐清香(琉球大・院・理工)・酒井一彦(琉球大・熱生研)
P-2	イシサンゴを宿主とするカイアシ類について	○山城秀之(沖高専・生資源)・Kim, Ill-Hoi(Kangnung Nat. Uni.)
P-3	石垣島とタヒチ島における造礁サンゴの垂直分布の違い	○杉原 薫(福岡大・理)・山田 努・中森 亨・井龍康文(東北大・院理)
P-4	四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入2004-2006	○宮本麻衣・横地洋之(東海大・院)・岩瀬文人(黒潮生物研究所)
P-5	サンゴに生育する藻類の多様性	○太期一弘(静岡大・理・生物地球)・中野義勝(琉球大・熱帯生物)・藤村弘行(琉球大・理・海洋自然)・石川義朗(静岡大・理工研・環境科学)・Beatriz E. Casareto(静岡大・遺伝子研究施設)・鈴木 款(静岡大・院・自然科学)・塩井祐三(静岡大・院・自然科学)
P-6	共生時における褐虫藻 <i>Symbiodinium</i> の微細形態：自由生活状態との比較	○山下 洋・小池一彦(北里大・水)・岩井憲司(沖繩水産海洋セ)・小椋山篤志・緒方武比古(北里大・水)
P-7	沖繩島西海岸におけるトゲサンゴ ( <i>Seriatothoa hystrix</i> ) 個体群	○長田智史(財) 沖繩県環境科学センター)・山川英治・小笠原敬・小澤宏之
P-8	人工基盤上でのサンゴ着生に影響を及ぼす生物群	○山本克則(鹿島技術研)・岩尾研二(阿嘉島臨海研)・大葉英雄(東京海洋大)・馬場将輔(海洋生物環境研)
P-9	石垣島白保サンゴ礁におけるサンゴならびに生物群集の変遷とその要因について	○前川 聡(財) WWFジャパン)・佐藤 哲(長野大・産業社会)・安村茂樹(財) WWFジャパン)・荒井 寛(井の頭自然文化園)・天野未知(東京都葛西臨海水族園)・鈴木倫太郎(駒澤大・応用地理研)・持田裕子(リーフチェックジャパン)・鈴木智子(財) WWFジャパン)
P-10	有孔虫とその生育基盤としての芝草状藻類フィールド観察と飼育実験ー	○井手陽一(海洋プランニング(株))・茅根 創(東大・理)
P-11	サンゴ幼生と付着生物群集の着生空間をめぐる競争について	○前川 剛・戸田達樹(創価大)・M.R.M. Kushairi (Universiti Industri Selangor)・B. A. A. Kee Alfian・B. H. R. Othman (Universiti Kebangsaan Malaysia)
P-12	西表島浦内湾におけるサラサバテイ <i>Trochus niloticus</i> の生態分布	○佐藤 守(東海大・海洋・院)・河野裕美(東海大・沖繩地域研究センター)・上野信平(東海大・海洋)
P-13	ガンガゼの摂食に対するエダミドリイシの保護	○岸本太郎(東海大・海洋・院)・権田泰之(木曾興業(株))・松永育之(株) 東海アクアノーツ)・上野信平(東海大・海洋)
P-14	マジュロ環礁における大型底生有孔虫の生息を規定する地理・地形・底質・水質条件	○大澤菜子(東大・院理)・藤田和彦(琉球大・理)・井手陽一(海洋プランニング)・茅根 創(東大・院理)
P-15	ライフフォーム別にみたサンゴの伸長とサンゴ群集の成長	○淵之上優美・岡下智子・SP Kok・前川 剛・中嶋亮太・戸田龍樹(創価大)・M. R. M. Kushairi (Universiti Industri Selangor)・B. H. R. Othman (Universiti Kebangsaan Malaysia)・寺崎 誠(東大)
P-16	礁池においてリュウキュウスガモと共存するエダコモンサゴの利益について	○中野義勝(琉大・熱生研)・二宮早由子(東京久栄)・土屋 誠(琉大・理)
P-17	沖ノ鳥島の礁池内に生息する造礁サンゴ類の産卵期と石灰生産量の推定	○岡地 賢(有) コーラルクエスト)・井手陽一(株) 海洋プランニング)・利根川 誠(国土交通省)
P-18	沖ノ鳥島のサンゴの広域調査	○北野倫生・山本秀一(エコー)・三上信雄・安藤 亘(水産土木建設技術センター)・河野大輔(水産庁漁港漁場整備部)
P-19	CCMP2467株を用いた刺胞動物ー褐虫藻モデル共生系の確立と応用	○宇都宮嘉宏(東大・海洋研)・紀井晋一・田中次郎(東京海洋大)・安村茂樹(WWFジャパン)・湯山育子・渡辺俊樹(東大・海洋研)

P-20	海洋博公園地先におけるヤギ類（花虫綱・八放サンゴ亜綱）の分布	○野中正法（沖縄美ら海水族館）・藤原秀一（いであ株式会社）
P-21	アザミサンゴの異なるタイプ間の交配実験の結果について	○安部真理子（琉球大・理工）・鈴木悠太・早川英毅・渡辺俊樹（東大・海洋研）・日高道雄（琉球大・理）
P-22	船上で採卵した沖ノ鳥島産 <i>Acropora tenuis</i> の種苗生産	○青田 徹（不動テトラ）・綿貫 啓（アルファ水工コンサルタンツ）・三上信雄・中村良太・石岡 昇（水産土木建設技術センター）・河野大輔（水産庁漁港漁場整備部）
P-23	高緯度サンゴ群集の放卵放精パターン	○野澤洋耕（財）黒潮生物研究所
P-24	高水温下で過酸化水素が <i>Galaxea fascicularis</i> の代謝に及ぼす影響	○樋口富彦（琉球大・理工）・藤村弘行・新垣雄光・大森 保（琉球大・理）
P-25	Overflow tank system to test electric accelerate coral growth	○岩瀬晃啓（琉球大・理工）・佐藤崇範・平良栄康（株）Aqua Culture Okinawa
P-26	硝酸態窒素によって誘導される褐虫藻の運動性	○神木隆行・山崎秀雄（琉球大・院）
P-27	2006年高知県大月町西泊における造礁サンゴの産卵状況と、 <i>Acropora solitaria</i> 2形態の生殖の特徴	○目崎拓真（東北大・院理）・岩瀬文人（黒潮生物研究所）・中地シュウ（黒潮生物研究所）・野澤洋耕（黒潮生物研究所）・宮本舞衣（東海大）
P-28	イシサンゴ類幼生の着生場所の選択について	○岩瀬文人（黒潮生物研究所）・深見公雄（高知大・院黒潮圏海洋）・目崎拓真（東北大・院理）・野澤洋耕（黒潮生物研究所）
P-29	Molecular characterization of the zoanthid genus <i>Saurus</i> (Anthozoa: Hexacorallia)	○J. D. Reimer（黒潮生物研究所）・S. Ono（都城東高）・F. Iwase（黒潮生物研究所）
P-30	環境中の褐虫藻細胞数定量方法の開発：リアルタイムPCR法の確立と応用	○大内 歩・小池一彦（北里大・水）・玉城泉也・林原 毅（西海水研・石垣）
P-31	沖縄産ザルガイに共生する褐虫藻の遺伝的多様性の解析	○紀井晋一（東京海洋大）・中谷将典（東大・海洋）・矢敷彩子・山口正士（琉球大）・田中次郎（東京海洋大）・西田 陸・渡辺俊樹（東大・海洋研）
P-32	水槽内におけるサンゴ種苗生産の試み	○中村良太・三上信雄・安藤 亘・石岡 昇（社）水産土木建設技術センター）・綿貫啓（株）アルファ水工コンサルタンツ）・河野大輔（水産庁漁港漁場整備部）
P-33	沖縄地方における海草藻場形成の制限要因、特に台風との関係について	二宮早由子・○井上隆彦（株）東京久栄）・安藤 亘（社）水産土木建設技術センター）・山本哲也（沖縄総合事務局）
P-34	駿河湾内浦江梨地先におけるエダミドリイシ <i>Acropora tumida</i> の個体群動態と再生手法に関する研究	○別所 学（東海大・院）・舟尾 隆（東海大・海洋科学博物館）・横地洋之（東海大・海洋研）

### 11月25日(土) 9:15~11:00

講演番号	タイトル	発表者氏名
P-35	藻食性魚類と栄養塩が小サンゴ群体の生存と成長に及ぼす影響	○玉井玲子（琉球大・院・海洋自然）酒井一彦（琉球大・瀬底実験所）
P-36	Analysis of Nutrient, Algal and Other Related Measurements in Shiraho Reef Area and Todoroki River: Implications for Monitoring and Modelling of Watershed-Reef Connectivity	○Ariel C. Blanco・瀧岡和夫・山本高大（東京工業大・院情報理工）
P-37	気象擾乱のもとでの石垣島東海岸サンゴ礁海域の水環境変動特性について	○山本高大（東京工業大・土木工）・瀧岡和夫・西本拓馬・Ariel.C.Blanco（東京工業大・院情報理工）・石丸 隆（東京海洋大・海洋科学・海洋環境）・有坂和真（東京工業大・院情報理工）・田村 仁（独）海洋研究開発機構 地球環境フロンティア研究センター）
P-38	港湾におけるサンゴ群集生育状況評価へのハビタット適正指数 (HSI) モデル適用の試み	○竹田 哲・前川 進・比嘉静秀・仲村進一・平山千尋（沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課）・古川恵太・五十嵐学（国土交通省国土技術政策総合研究所）・池田義紀・長倉敏郎（港湾空間高度化環境研究センター）・高尾敏幸・山本秀一（株）エコー沿岸環境部）
P-39	慶良間諸島の屋嘉比島・久島島周辺でみられる白化被害からの回復の兆し	○谷口洋基（阿嘉島臨海研究所）
P-40	可視・近赤外線によるサンゴの活性モニタリング手法の開発	○齊藤 宏・岸野元彰・石丸 隆（東京海洋大・海洋）・瀧岡和夫（東京工業大・院情報理工）・工藤 栄（国立極地研究所）
P-41	石垣島白保サンゴ礁内における生産量の測定	○中村隆志・中森 亨（東北大・院理）
P-42	高濃度CO <sub>2</sub> 条件下における炭酸カルシウムの溶解速度測定	山本 将史（日本製粉（株））・○渡邊 敦（名古屋・院環境）・茅根 創（東京大・院理・地球惑星）・野崎 健・加藤 健・根岸 明（産業技術総合研究所）
P-43	黒島の沿岸海域及び地下水の水質について	○岩崎誠二（三重大・院生物資源）・佐藤晴香・亀田和成（三重大・生物資源）・若月元樹（黒島研究所）
P-44	サンゴ-海草混成群落における基礎生産量の比較	○石川義朗（環境科技研）・鈴木 款（静岡大）・ベアトリス E カサレト(LASC)・藤村弘行（琉球大）・中野義勝（琉球大）・篠村理子（静岡大）・黒沢勝彦・川満 悟（LASC）・本宮信夫（海游）
P-45	Niue島産の化石 <i>Porites</i> の炭素・酸素同位体比記録	○山田 努（東北大・院理・地圏進化学）・浅海竜司（東北大・院理・地球環境物理学）・井龍康文（東北大・院理・地圏進化学）・Gustav Paulay（Department of Zoology, University of Florida）
P-46	Ammonium uptake kinetics of crustose coralline algae	○Yeong-Shyan Yuen・Takashi Nakamura・Hideo Yamasaki（琉球大・院理工）
P-47	シャコガイ殻を用いた高分解能の環境解析に適した殻の大きささと年齢	○服部忠嵩（東北大・理）・山田 努（東北大・院理）・岩井憲司（沖縄県水産海洋研究センター-石垣支所）
P-48	過去数百年間の古海洋環境-巨大サンゴの骨格記録からの復元-	○浅海竜司・山田 努・井龍康文・花輪公雄（東北大・院理）
P-49	沖ノ鳥島のサンゴ年輪解析による古環境復元	○阿部修平・茅根 創・中村修子・飯嶋寛子（東大・院理・地球惑星）
P-50	ケニアのサンゴ年輪による過去50年間のインド洋ダイポールモードの復元	○中村修子・茅根 創・飯嶋寛子（東大・院理・地球惑星）・Timothy R. McClanahan（Marine Programs, Wildlife Conservation Society, USA）・Swadhin Behera（海洋研究開発機構）・山形俊男（東大・院理・地球惑星）
P-51	サンゴ礁におけるアミノ酸の組成と変動	○篠村理子・鈴木 款（静岡大）・ベアトリス カサレト（LASC）・中野義勝（琉球大）・伊藤卓司（三菱商事）
P-52	G I S でみた瀬底島北西部サンゴ礁生態系の空間構造	○中井達郎（国土館大）・中野義勝（琉球大）・鈴木 款（静岡大）・伊藤卓司（三菱商

P-53	有孔虫 <i>Amphistegina</i> 属を用いたサンゴ礁海域の古水深の推定	○小林海央・藤田和彦(琉球大・理工・物質地球科学)
P-54	パラオ諸島カヤンゲル環礁州島の堆積相と完新世における堆積プロセス	○安河内貴・茅根 創・大澤葉子(東大・院理・地球惑星)
P-55	石垣島サンゴ礁の風上側および風下側の形成過程	○本郷宙軌・茅根 創(東大・院理・地球惑星)
P-56	パラオ共和国でのミドリイシ属サンゴ種苗生産の試み	○岩尾研二(阿嘉島臨海研究所)・田村 實(阿嘉島臨海研究所)・Irving Dwight (Palau International Coral Reef Center)・下池和幸(財)自然環境研究センター)・大森 信(阿嘉島臨海研究所)
P-57	サンゴ礁生態系への人為影響評価のための社会統計に基づく八重山地域の社会構造変遷解析	○松浦慎平・瀧岡和夫・熊谷 航・塚本栄子(東京工業大・情報理工)
P-58	小型無人探査機によるサンゴ礁調査：新型観測プラットフォームUROV/AUVの試験航行	○吉田 弘・石橋正二郎(独)海洋研究開発機構 海洋工学センター)・山本啓之・古島靖夫(独)海洋研究開発機構 極限環境生物圏研究センター)・百留忠洋(独)海洋研究開発機構 海洋工学センター)・石川暁久(日本海洋事業(株))・上村宇之(広和株式会社)
P-59	日本における観賞用サンゴ類の流通と飼育の現状	○佐藤崇範・平良栄康(株)Aqua Culture Okinawa)
P-60	Carbonate deposits on submerged seamounts in the northwestern Pacific	○Takayanagi, H.・Iryu, Y.・Yamada, T.・Oda, M. (Tohoku Univ.)・Sato, T. (Akita Univ.)・Chiyonobu, S. (Tohoku Univ.)・Nishimura, A.・Nakazawa, T.・(Geological Survey of Japan, AIST)・Shiokawa, S (JOGMEC)
P-61	港湾整備におけるサンゴ群集との共生技術	竹田 哲・○前川 進・比嘉静秀・仲村進一・平山千尋(沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課)・池田義紀・長倉敏郎(港湾空間高度化環境研究センター)・岩村俊平・山本秀一(株)エコー沿岸環境部)・高橋由浩(株)エコー沖繩事務所)
P-62	サンゴ群集の船舶による長距離運搬技術の開発	○山本秀一・北野倫生(エコー)・青田 徹(不動テトラ)・安藤 亘・石岡 昇・三上信(水産土木建設技術センター)・河野大輔(水産庁漁港漁場整備部)
P-63	リーフ内筋目模様と数値計算による流動場との対応性の検討	瀧岡和夫, ○竹本直人(東京工業大・院情報理工)
P-64	框礁型サンゴ礁におけるサンゴ幼生の分散過程に関する数値シミュレーション	瀧岡和夫・○有坂和真(東京工業大・院情報理工)・田村 仁(独)海洋研究開発機構 地球環境フロンティア研究センター)
P-65	琉球列島周辺の流動場解析および環境耐性を考慮した浮遊幼生輸送解析	○西本拓馬・瀧岡和夫・安田仁奈(東京工業大・院情報理工)・田村 仁・宮澤泰正(独)海洋研究開発機構 地球フロンティア研究センター)
P-66	高緯度地域のサンゴ群集における高温耐性の共生藻 <i>Symbiodinium</i> 遺伝子D1D2の存在	○Yi-Ting Lien(京大・瀬戸臨海実)・中野義勝(琉球大・瀬底実験所)・Sakanan Plathong(タイPrince of Songkla大学)・深見裕伸(京大・瀬戸臨海実)・Jih-Terng Wang(台湾Tajen科学技術学院)・Chaolun Allen Chen(台湾中央研究院生物多様性中心)
P-67	ミトコンドリア遺伝子による沖ノ鳥島と沖縄産のミドリイシ数集の比較	○深見裕伸(京大・瀬戸臨海)・林原 毅(水産総合研究センター・西海区水研)・三上信雄・安藤 亘・石岡 昇(社)水産土木建設技術センター)・河野大輔(水産庁・漁港漁場整備部)
P-68	Ciliate-induced Brown Band Disease/Syndrome in the Branching coral <i>Acropora formosa</i> Exposed to Temperature Stress	○KESHAVMURTHY Shashank・FUKAMI Kimio (Kochi Univ.)・MATOBA Yosuke (Kochi Univ.)
P-69	Community structures of coral reefs around Peninsular Malaysia	Toda, T.・Okashita, T.・Maekawa, T. (Soka Univ.)・Kee Alfian, B. A. A. (Universiti Kebangsaan Malaysia)・Kushairi, M. R. M. (Universiti Industri Selangor)・Nakajima, R. (Soka Univ.)・Chen, W. (The University of Aizu)・Takahashi, K. T. (National Institute of Polar Research)・Othman, B. H. R. (Universiti Kebangsaan Malaysia)・Terazaki, M. (The University of Tokyo)
P-70	沖縄県慶良間諸島サンゴ礁域におけるカロテノイド生産菌の探索と系統解析	○住谷保治・平川理恵・森田聡・田尻直史・梶田知子・平林幹大(近畿大・農)・榊 秀之(千寿製薬)・津島巳幸(京都薬科大)・幹 渉(富士化学)・ジン・タナンゴナン・沢辺昭義・坂上吉一・米虫節夫(近畿大・農)

## ★発表について★

### ●口頭発表

- 口頭発表の講演時間は質疑応答込みで一人15分とします(講演12~13分、質疑2~3分)。
- 発表機材は液晶プロジェクターとOHPを用意いたします。
- 液晶プロジェクターによる講演では  
WindowsはWindows XP、PowerPoint 2002以降  
MacintoshはMacOS X、PowerPoint 2004以降  
をインストールしたコンピューターを用意いたします。
- ファイルの受付とプレビューは11/24日の午前中と11/25日の午前中に会場で行います。受付可能なメディアはCD-RまたはUSBメモリーです。
- 個人のコンピューターも使用できますが、不測の事態に備えてOHPシートもご用意ください。

### ●ポスター発表

- ポスターパネルの大きさは約240cm(縦)×90cm(横)です。この範囲に収まるように各自で自由にポスターの大きさを設定ください。
- ポスターは9:00までに各自の講演番号が表示されているパネルに張り、17:00まで掲示してください(画紙・セロテープ等はこちらで用意します)。
- 講演時間帯(9:15-11:00)には必ずポスターの前に立ち、内容の説明・質疑に対する応答を行ってください。
- ポスター発表の際にPC用の電源が必要な方はあらかじめご連絡ください。

### 〈ポスター賞について〉

今大会も優れたポスター発表にはポスター賞を授与いたします。大会参加者はポスター賞の投票をすることができます。投票用紙は大会当日に受付で配布いたします。